

岩手県金融経済概況（2019年11月）

1. 概況

県内経済は、弱めの動きがみられるものの、緩やかな回復基調を続けている。

最終需要の動きをみると、個人消費は、消費税率引き上げなどの影響による振れを伴いつつも、底堅く推移している。公共投資は高水準ながらも減少している。住宅投資、設備投資は横ばい圏内の動きとなっている。

生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。

労働需給は、引き締まった状況が続いている。

消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回った。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、消費税率引き上げなどの影響による振れを伴いつつも、底堅く推移している。

百貨店売上高（全店舗ベース；2019年10月）は、3ヵ月振りに前年を下回った（前年比△16.6%）。

スーパー売上高（全店舗ベース；2019年10月）は、3ヵ月振りに前年を下回った（前年比△3.7%）。

新車登録・届出台数（乗用車＜含む軽＞；2019年11月）は、2ヵ月連続で前年を下回った（前年比△16.3%）。

(2) 建設投資（公共投資、住宅投資、設備投資）

公共工事請負金額（2019年11月）は、2ヵ月振りに前年を下回った（前年比△9.3%）。

新設住宅着工戸数（2019年10月）は、2ヵ月連続で前年を上回った（前年比+69.2%）。

—— 持家（前年比+35.2%）は4ヵ月振りに前年を上回った。貸家（同+97.4%）は2ヵ月連続で前年を上回った。分譲（同2.9倍）は3ヵ月連続で前年を上回った。

民間設備投資（2019年12月短観ベース；2019年度計画）は、前年を上回る計画（前年比+2.8%）となっている。

—— 製造業、非製造業ともに、投資額が上方修正されたことから、製造業が前年を上回る計画（前年比+4.9%）となったほか、非製造業は前年並みの計画（同+0.0%）となった。

県内の官民建設工事全体の出来高総計（2019年10月）は、8ヵ月連続で前年を下回った（前年比△12.1%）。

3. 生産動向

生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。

鉱工業生産指数（季節調整値；2019年9月）は、2ヵ月振りに前月を上回った（前月比+3.0%）。

—— 主要業種別にみると、情報通信機械、電子部品・デバイス、輸送機械が上昇した一方、化学、食料品が低下した。

なお、四半期の動きをみると、2019/7～9月は2期連続で前期比増となった（2018/10～12月：前期比+1.4%、2019/1～3月：同△7.1%、4～6月：同+1.2%、7～9月：同+2.2%）。

4. 雇用・所得動向

労働需給は、引き締まった状況が続いている。

有効求人倍率（季節調整値；2019年10月）は、1.38倍と2ヵ月振りに前月を上回った（2013年5月以降78ヵ月連続で1.00倍以上で推移＜過去最長＞）。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査；2019年10月）は、2ヵ月連続で前年を上回った（前年比+0.2%）。

雇用者所得（県内合計値；2019年9月）は、常用雇用指数（前年比+0.2%）が前年を上回ったものの、名目賃金指数（同△0.8%）が前年を下回ったことか

ら、4ヵ月連続で前年を下回った（同△0.6%）。

5. 物価

消費者物価指数（除く生鮮食品；2019年11月）は、諸雑費（身の回り用品等）、教育、光熱・水道、交通・通信が下落した一方、食料（外食等）、家具・家事用品、教養娯楽、被服及び履物が上昇したことから、全体では前年を上回った（前年比+0.5%）。

6. 企業倒産

企業倒産（2019年11月）は、2件、260百万円（前年同月；2件、49百万円）と、引き続き低水準となっている。

7. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金・貸出（2019年10月）については、預金、貸出とも前年を上回った。貸出約定平均金利（2019年10月）は前月に比べて低下した。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） <http://www3.boj.or.jp/morioka/>